

## 人権教育のより一層の充実を図るために

～ 研究指定校等の実践を参考に ～

人権同和教育課

### 文部科学省人権教育研究指定校事業

#### 共感的・支持的な人間関係づくりのために

南さつま市立金峰中学校は、「個性を認め合い、自他を大切にし、ともに伸長する実践力のある生徒の育成」をテーマに、「仲間づくり」、「授業づくり」、「環境づくり」の視点で実践研究に取り組み、その成果を令和3年11月18日に研究公開で発表しました。当日は、多くの参加があり、人権教育の推進に向けた取組について、熱心な協議が行われました。

研究発表では、「SOBA-SET」を活用し、生徒の自尊感情の状況を把握して教育相談等を行ったことで、適切な指導に結び付いた事例などが紹介されました。また、公開授業では、生徒が学び合う場を工夫した取組により、それぞれの表現のよさに気付き、互いを尊重する姿が見られるなど、共感的人間関係が育まれている様子が見られました。

研究の成果として、「仲間づくり」の視点では、機会を捉えて体験的な学習を取り入れたことで、互いの存在を意識し、認め合う言葉が増えてきました。「授業づくり」の視点では、生徒が互いの学習状況等を確認する「学び合いのものさし」を活用したことで、様々な場面において、生徒同士が教え合う姿が見られるようになりました。「環境づくり」の視点では、校内の各場所に生徒の声や思いを提示したことで、互いを認め、大切にしようとする雰囲気が醸成されるようになりました。



【学び合いの様子】

#### 友達のよいところを認め合うために

出水市立大川内小学校は、「自他のよさを認め合い、心きらめく大川内っ子の育成」をテーマに、学校・家庭・地域が連携・協力して、児童一人一人の可能性を引き出し、自尊感情を高める研究に取り組んでいます。その取組の一つとして、友達のよいところを認め合う「ハッピーメッセージ」を作成し、教室や廊下などに掲示しています。

メッセージには、「ありがとう」など、感謝の気持ちを表す言葉が書かれており、友達との体験と感情の共有が図られています。



【ハッピーメッセージ】

### 文部科学省人権教育総合推進地域事業

#### ハンセン病問題を考える

始良市は、山田中学校区において、学校・家庭・地域社会が一体となった人権教育の総合的な取組を推進しています。山田中学校では、「夢や希望をもち、自他共に認め合う心を育てる人権教育の推進」をテーマに、小学校や地域と連携を図りながら研究に取り組んでいます。

11月に、国立ハンセン病資料館の大高 俊一郎 社会啓発課長を講師として招聘し、家庭教育学級と連携して講演会を実施しました。生徒は事前学習や事後学習で、校区内の小学校や地域の方々への啓発の仕方について話し合いました。



【事前学習の様子】

### 子どもの人権プロジェクト推進校の実践を参考に！

県教委では、「人権教育は全ての教育の基本である」という認識の下、様々な教育課題の解決を図るため人権教育の実践研究を行う「子どもの人権プロジェクト推進校」を指定しています。令和3年度は18校を指定し、実践研究に取り組んできました。

県のホームページに各推進校の取組を掲載していますので、人権教育の推進に御活用ください。（※本年度の取組は3月掲載予定）

下の二次元コードを活用するか、「子どもの人権プロジェクト」で検索してください。



【推進校の取組】